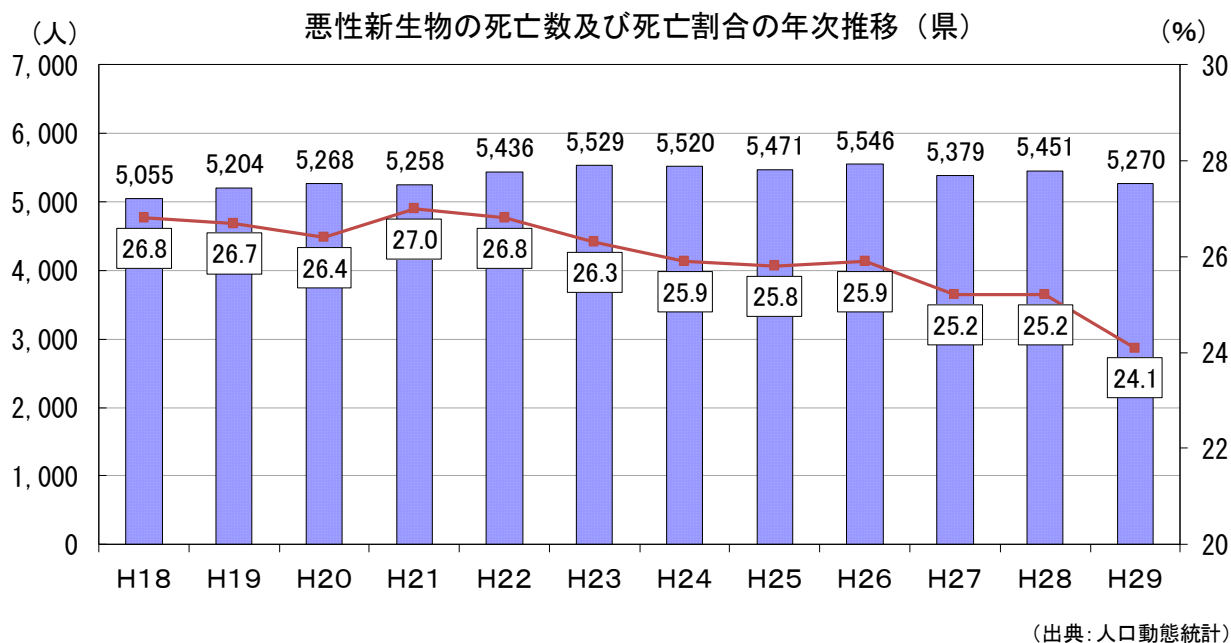


本県におけるがんの現状
について

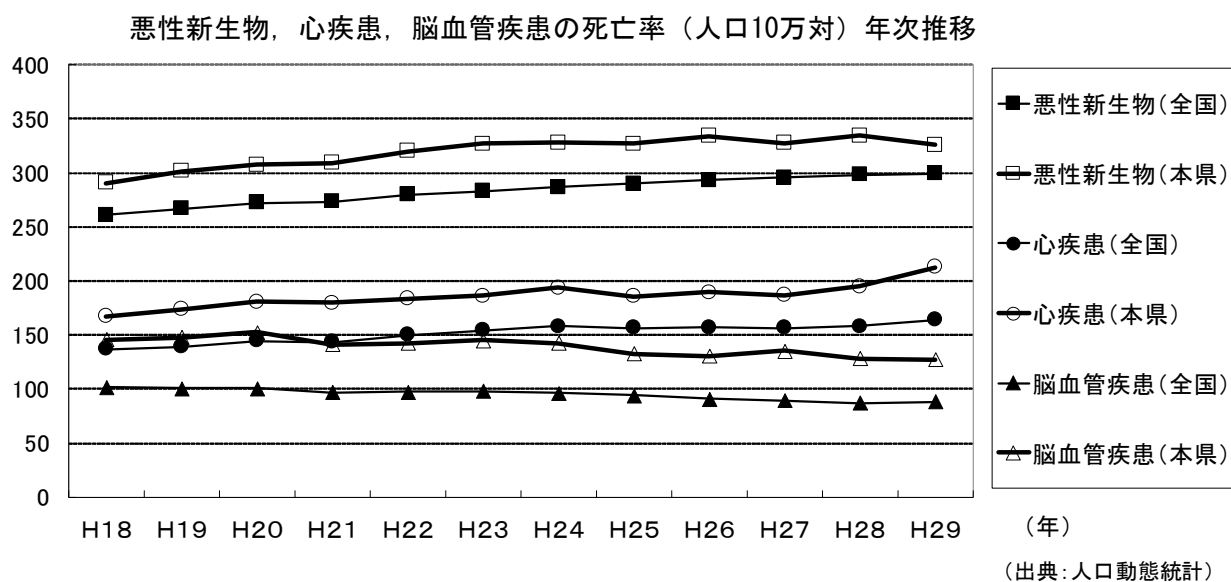
がんの死亡状況について

1 死亡数・死亡割合の推移



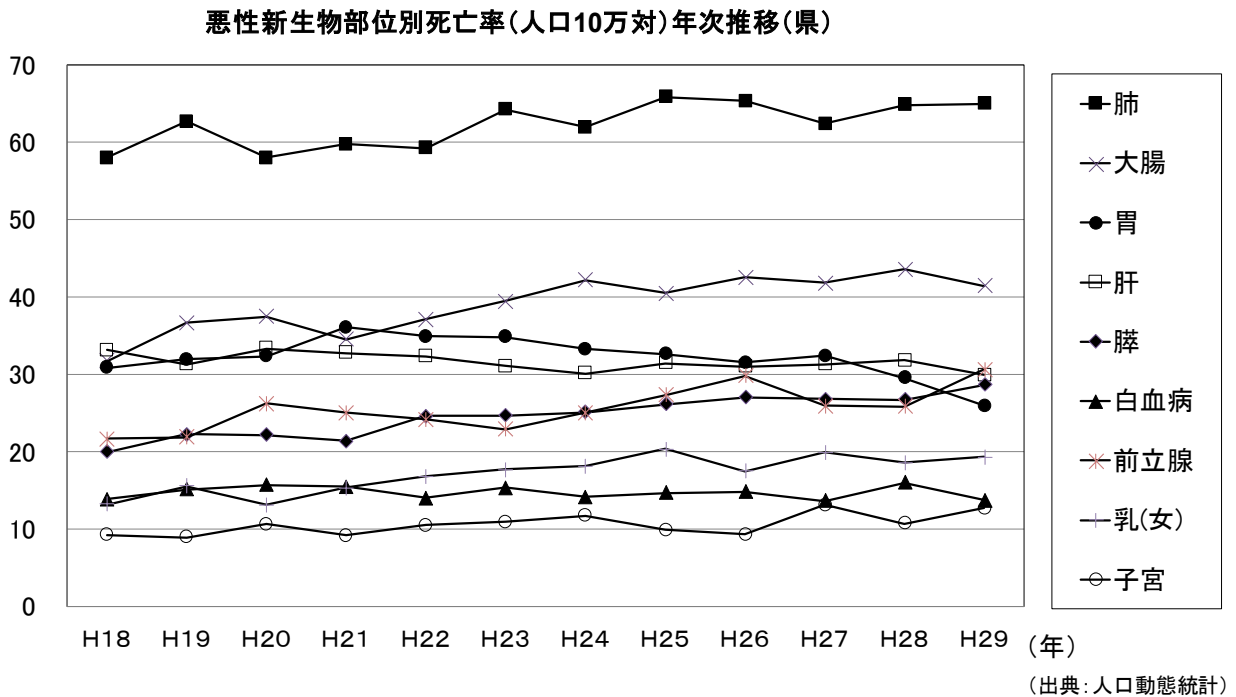
- ・ 本県の悪性新生物による死亡者数は、例年5000人前後で推移しており、全死亡者数の約25%を占めている。

2 悪性新生物，心疾患，脳血管疾患の死亡率（人口10万対）年次推移



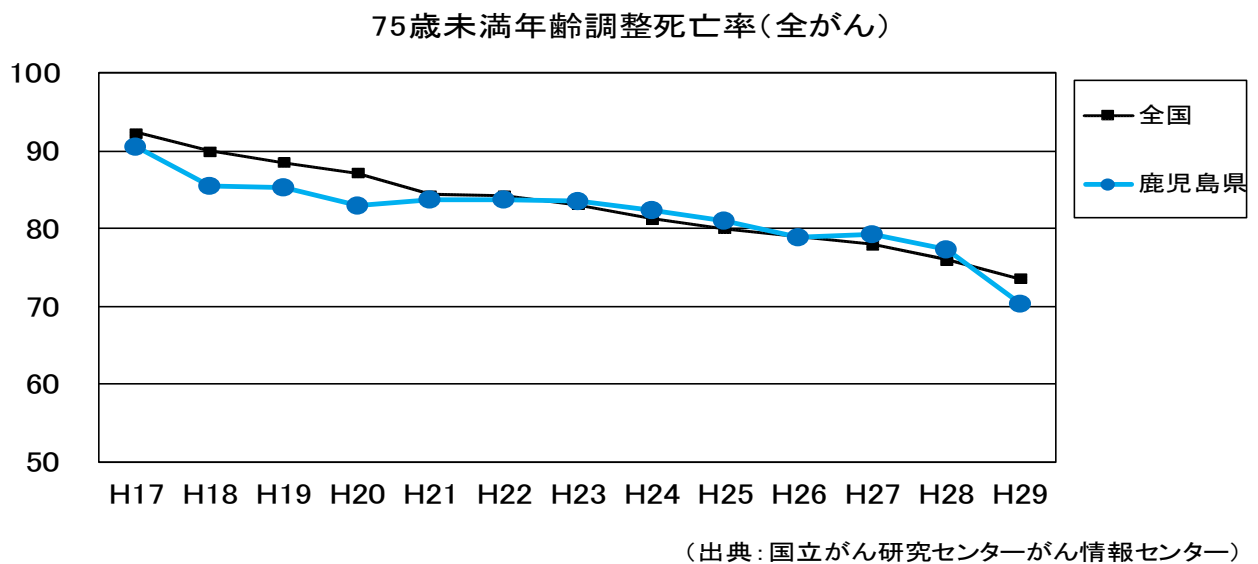
- ・ 県の悪性新生物，脳血管疾患の死亡率は平成28年に比べ減少し，心疾患は増加している。

3 悪性新生物部位別死亡率（人口10万対）年次推移（県）



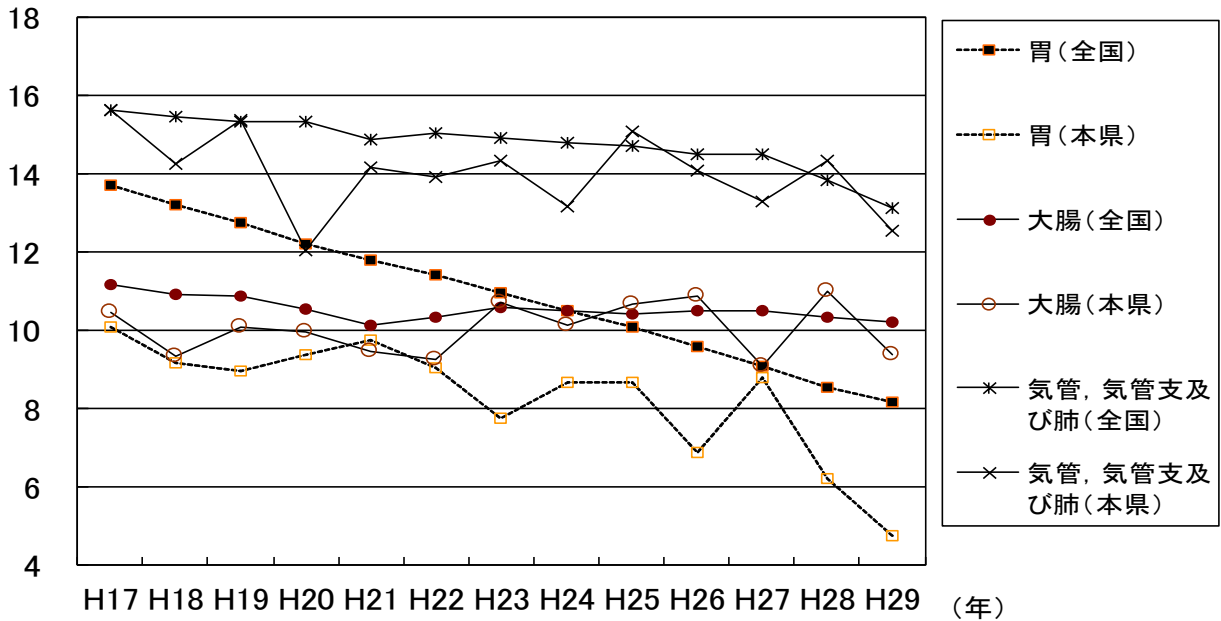
・ 本県の平成29年の死亡率は、肺がん、大腸がん、前立腺がんの順に高い。

4 75歳未満年齢調整死亡率※（人口10万対）



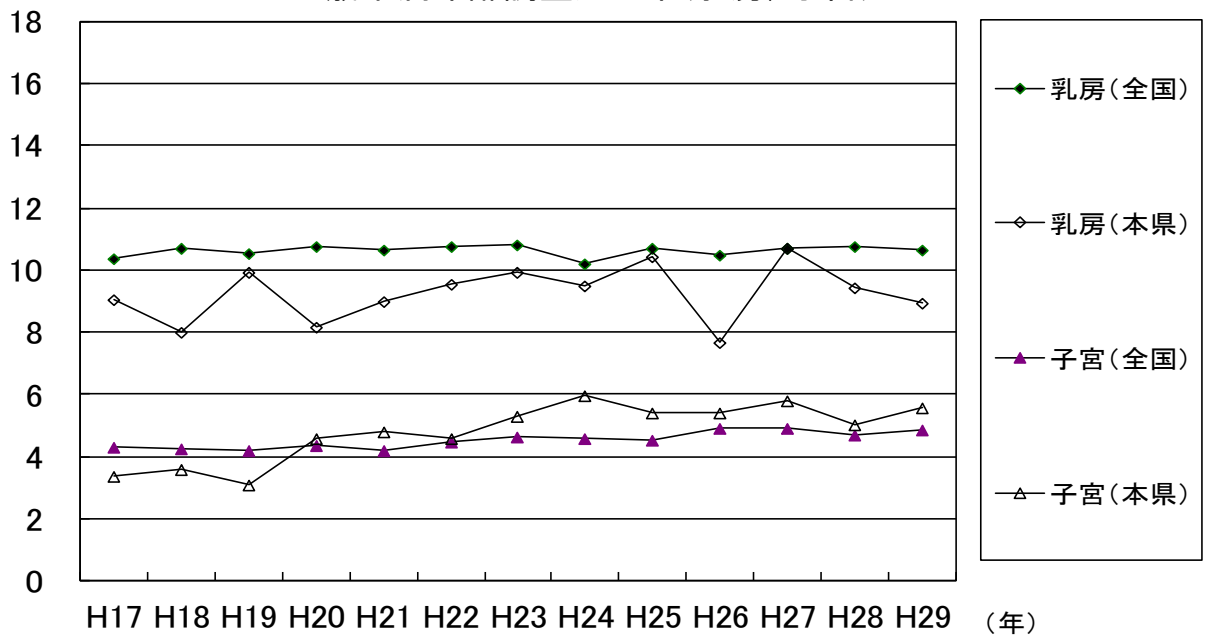
※75歳未満年齢調整死亡率とは、年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率である。

75歳未満年齢調整死亡率(胃, 大腸, 肺)



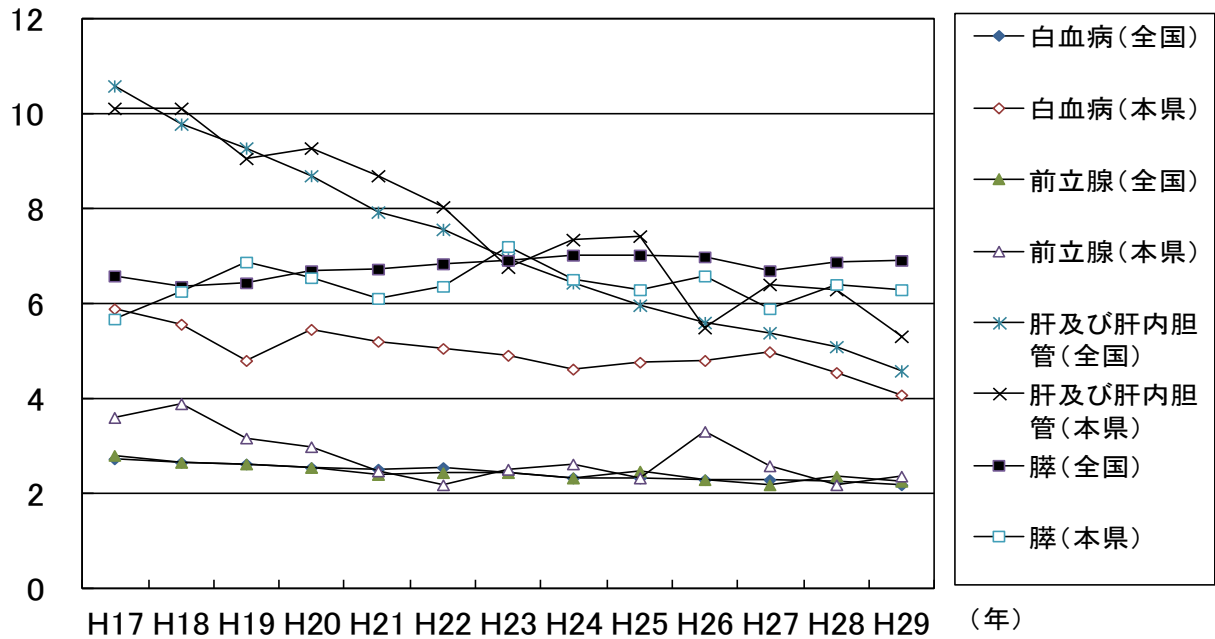
(出典: 国立がん研究センターがん情報センター)

75歳未満年齢調整死亡率(乳房, 子宮)



(出典: 国立がん研究センターがん情報センター)

75歳未満年齢調整死亡率(白血病, 前立腺, 肝臓, 膵臓)



(出典: 国立がん研究センターがん情報センター)

- ・ H29年の75歳未満年齢調整死亡率で本県と国を比較すると、本県が国を上回っているのは、子宮、肝及び肝内胆管、白血病、前立腺である。
- ・ 子宮がんの75歳未満年齢調整死亡率が、近年上昇傾向にある。

5 標準化死亡比※ (SMR) (H24 - H28年)

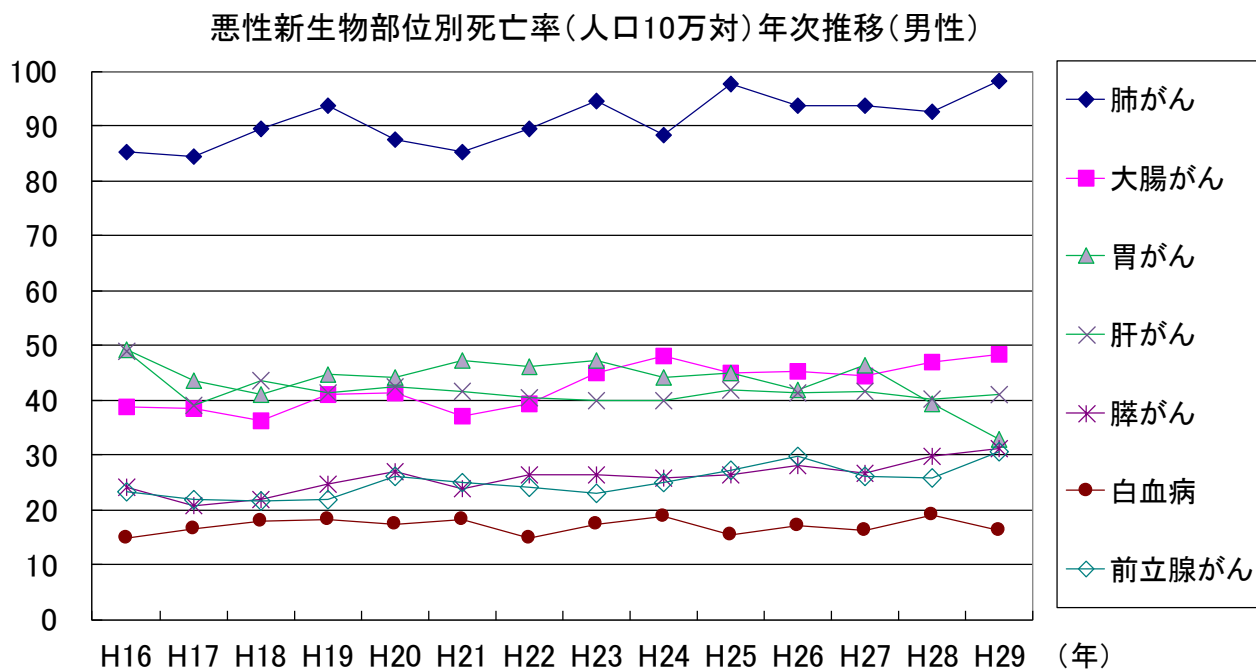
(県健康増進課算出)

部位	悪性新生物総数		胃		肺		大腸		子宮	乳房
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	女性	女性
SMR										
H24-H28	93.4	95.2	69.8	69.8	89.7	98.1	89.7	90.7	101.7	83.3

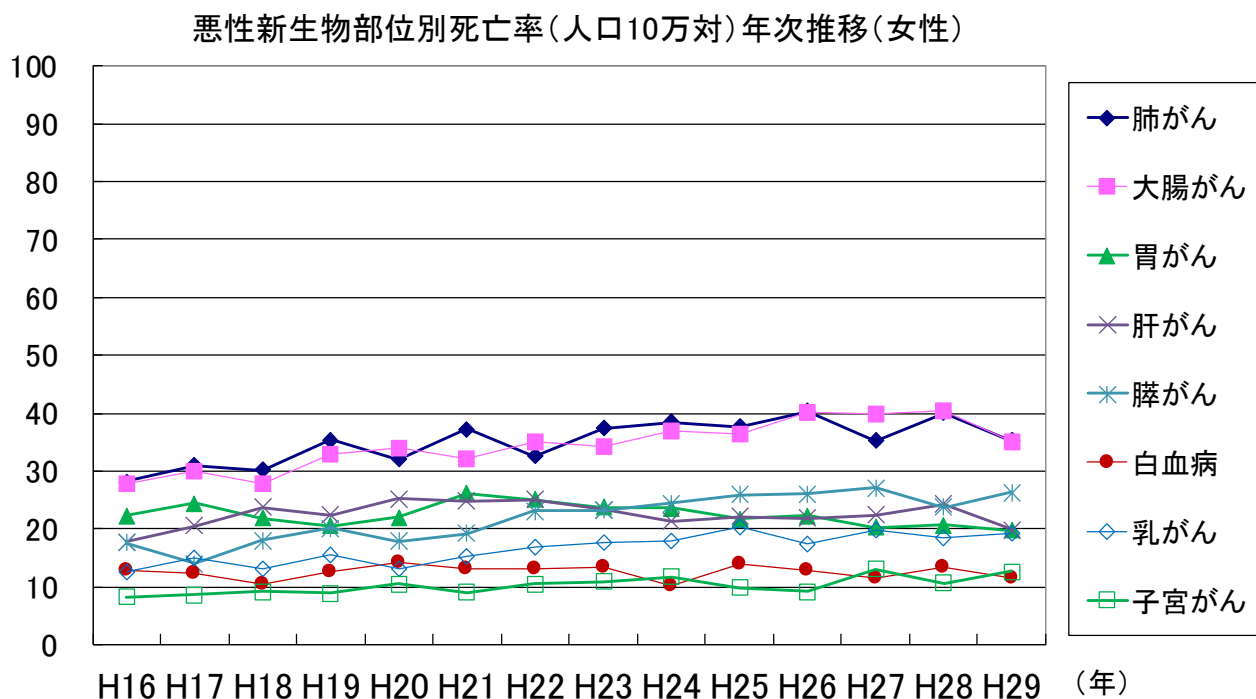
- ・ 標準化死亡比 (SMR) は、子宮がん以外のすべてののがんで全国平均より低くなっている。

※標準化死亡比とは、人口構成の違いを除去して死亡率を比較するための指標である。全国平均を100とし、SMRが100より大きいときは全国に比べ死亡率が高いと判断され、100より小さければ全国に比べて死亡率が低いと判断される。

6 悪性新生物部位別死亡率（人口10万対）の男女別年次推移（県）



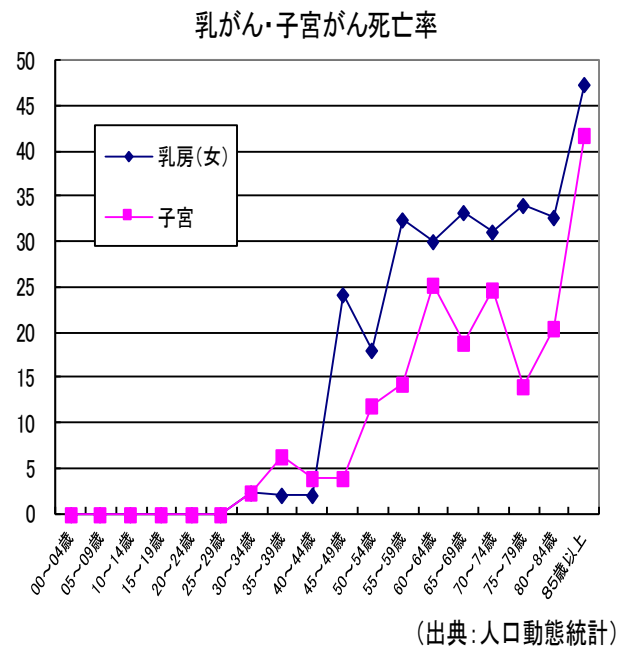
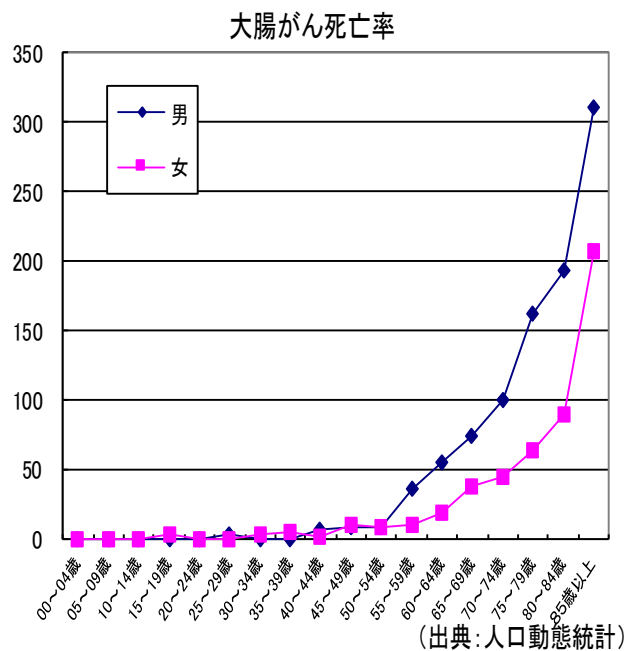
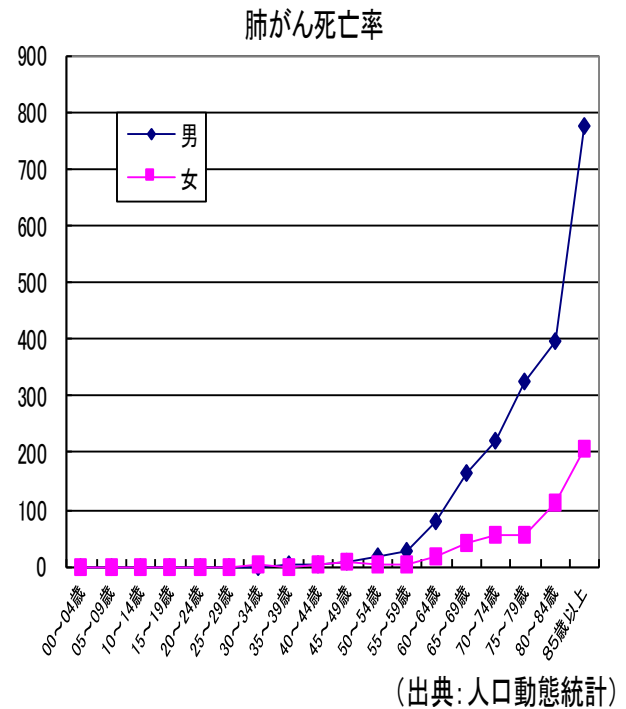
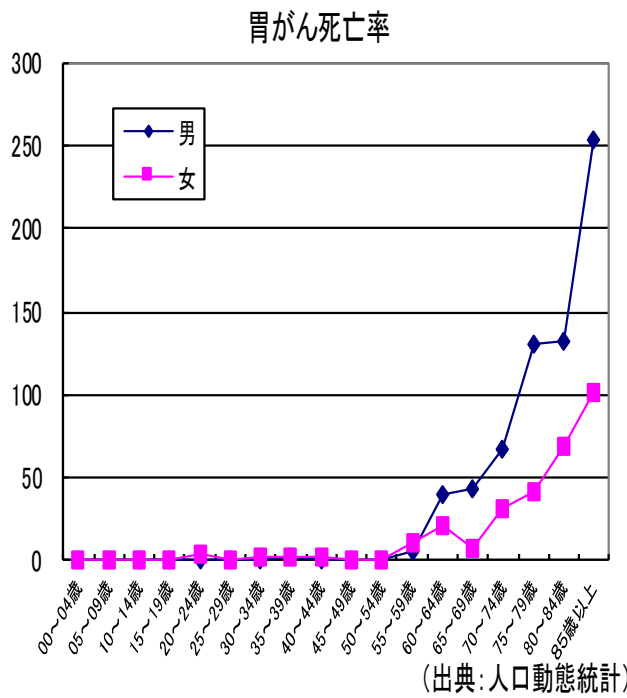
(出典:人口動態統計)



(出典:人口動態統計)

- 平成29年において、男性は肺がん，大腸がん，肝がんの順に多く，女性は，肺がん，大腸がん，膵がんの順に多い。

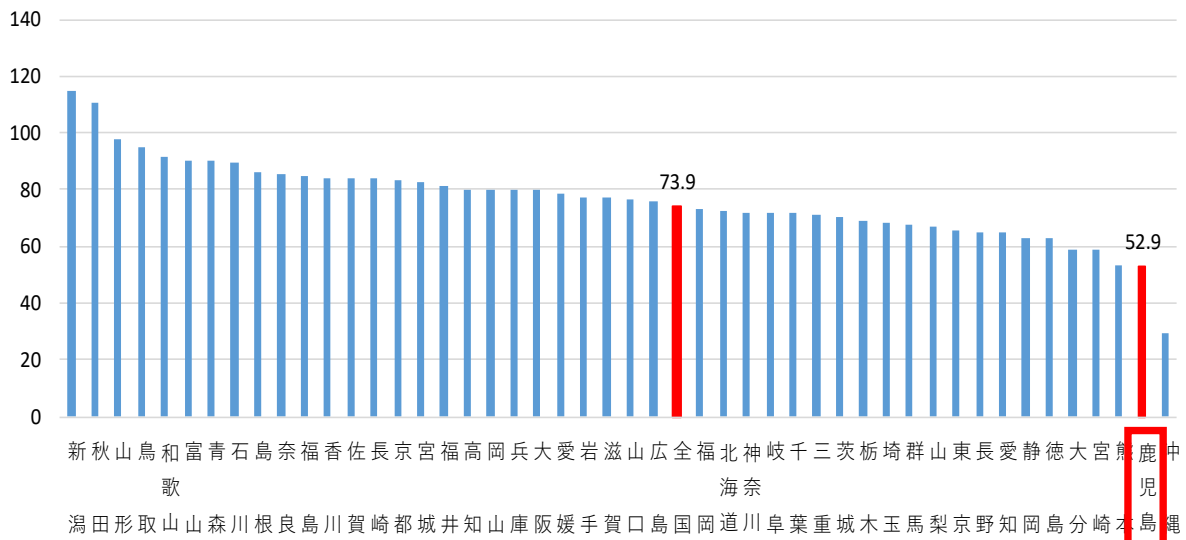
7 平成29年部位別・階級年齢別がん死亡率（人口10万対）グラフ（県）



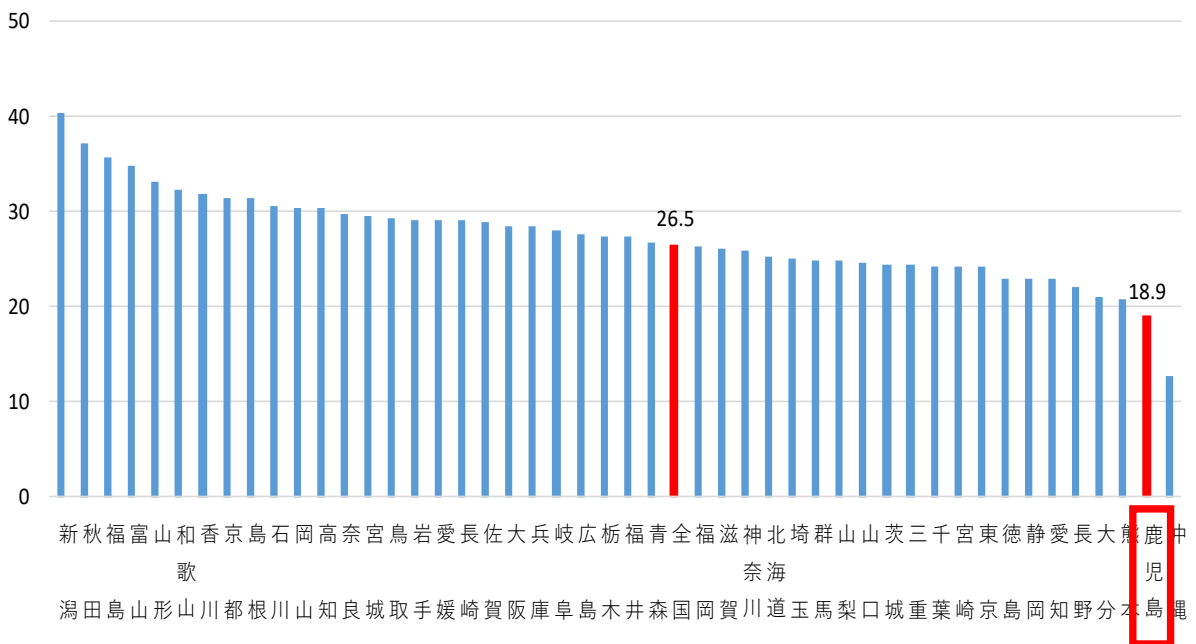
- ・ 部位別の年齢階級別死亡率を見ると、胃・肺・大腸がんについては、女性より男性の方が高く、50歳代頃から年齢が高くなるに従い、増加している。
- ・ 乳がん、子宮がんは、30歳代の比較的若い年代から死亡している。乳がんは40歳代にかけて一つのピークがあり、子宮がんも30歳代以降で死亡がみられ、50歳代から死亡率が高くなっている。

8 都道府県別年齢調整罹患率※（人口10万対）

年齢調整罹患率（胃がん）男性（H28年）



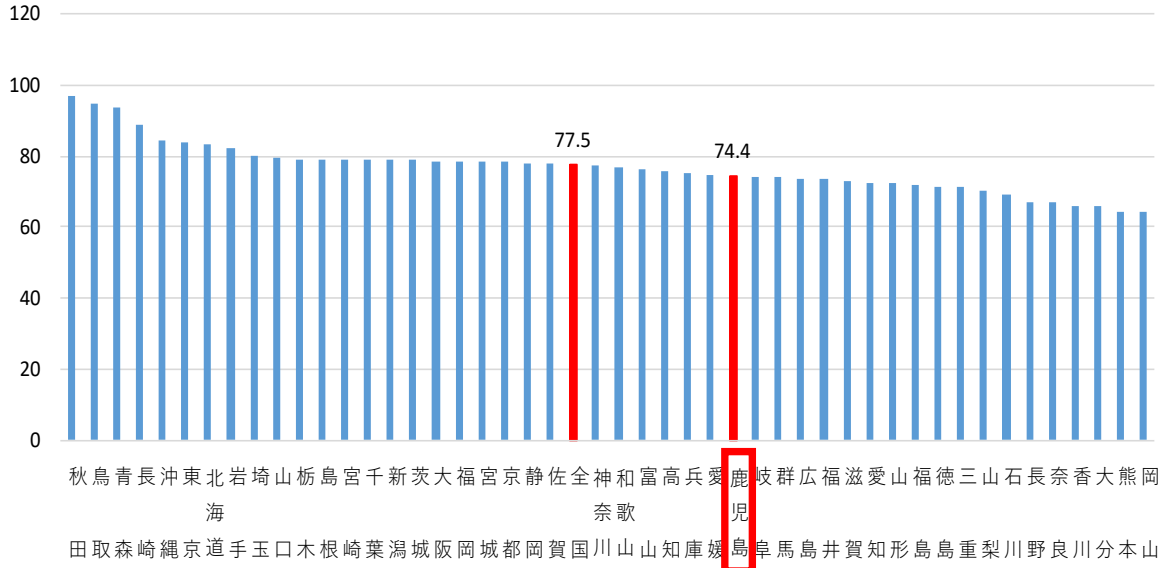
年齢調整罹患率（胃がん）女性（H28年）



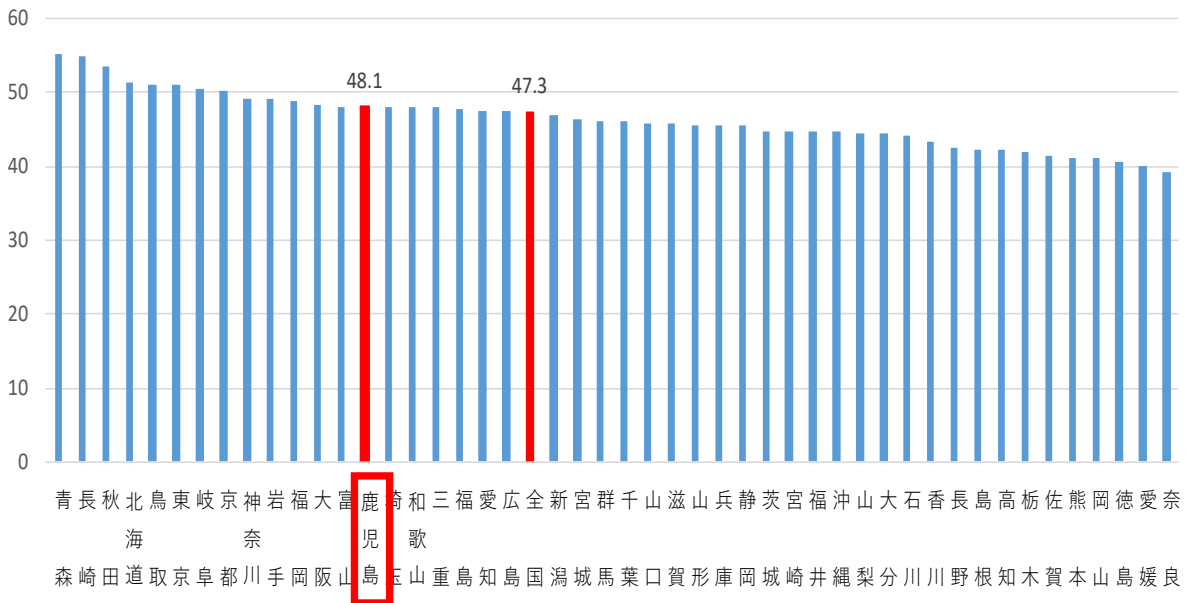
（出典：全国がん登録情報）

※罹患率とは、ある集団で新たに診断されたがんの数を、その集団でその期間の人口で割った値。

年齢調整罹患率（大腸がん）男性（H28年）

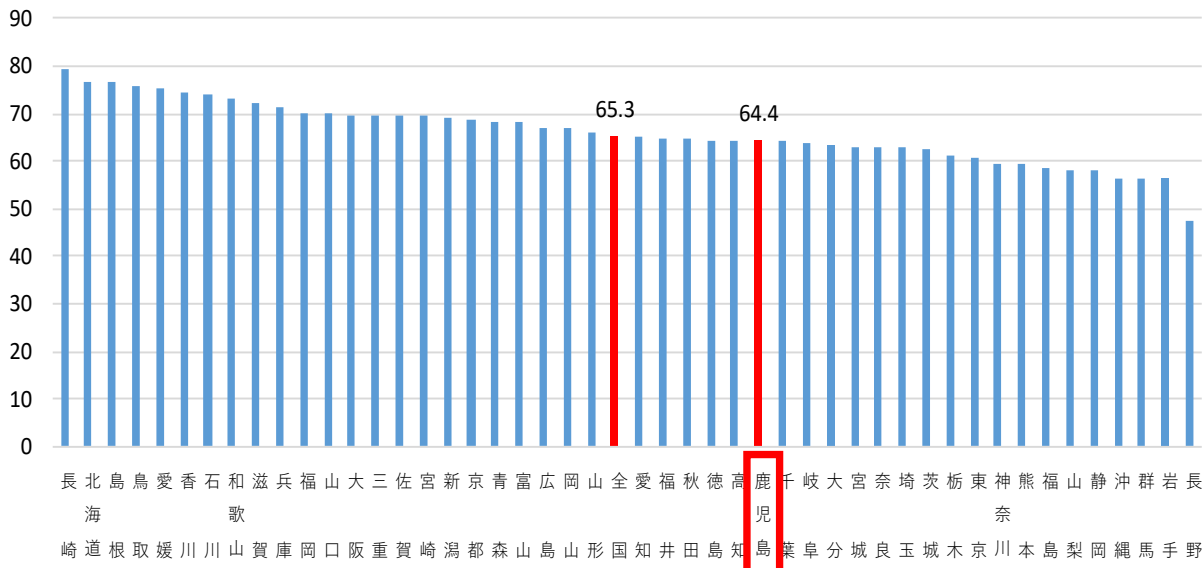


年齢調整罹患率（大腸がん）女性（H28年）

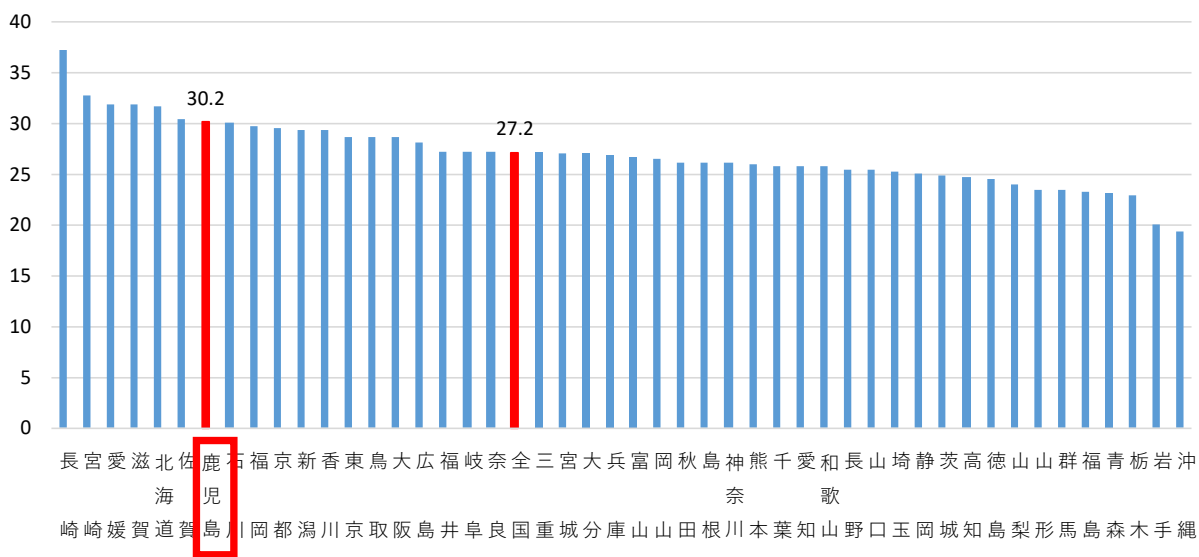


(出典：全国がん登録情報)

年齢調整罹患率（肺がん）男性（H28年）

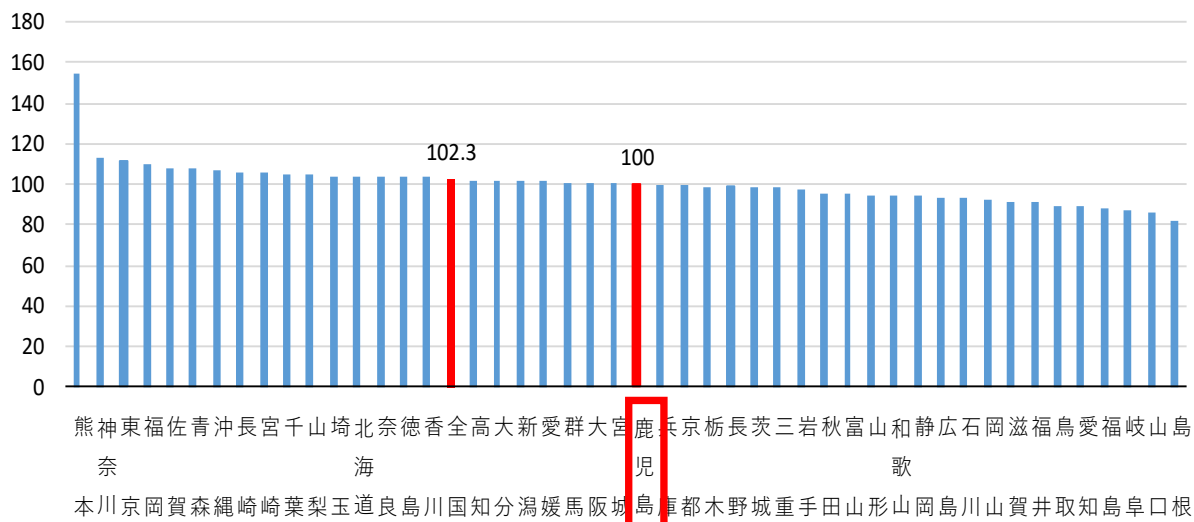


年齢調整罹患率（肺がん）女性（H28年）

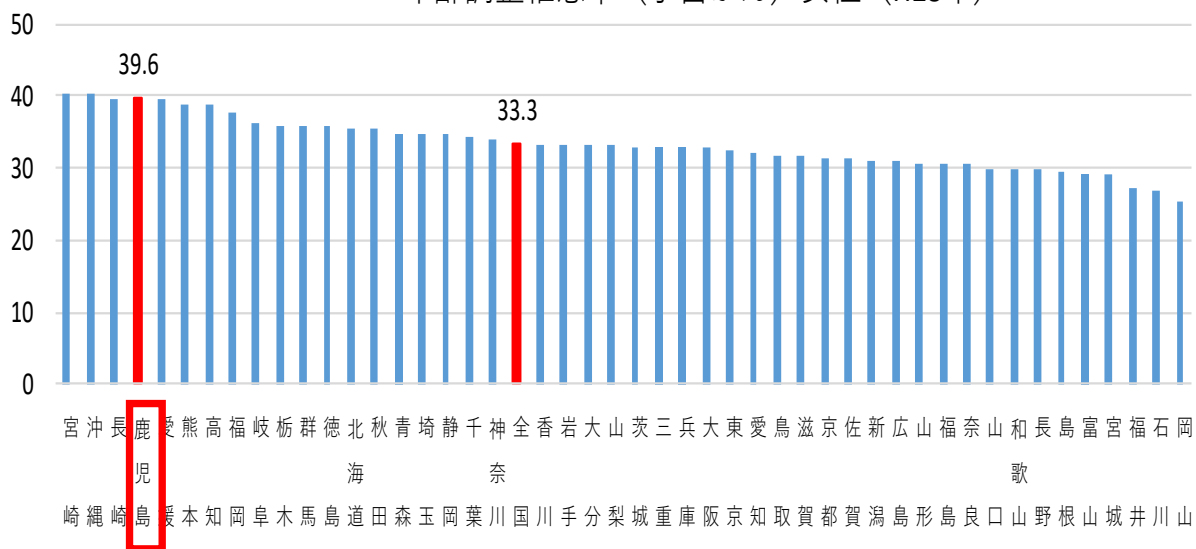


(出典：全国がん登録情報)

年齢調整罹患率（乳がん）女性（H28年）



年齢調整罹患率（子宮がん）女性（H28年）



(出典：全国がん登録情報)